



徳山の盆踊
フォトレポート



徳山の盆踊は、 こうして守り継がれる



8月15日、徳山の浅間神社に続々と人が集まってきました。厳かに行われた神事の後、軽快なお囃子とともに「徳山の盆踊」が始まりました。

今年も絶えることのない 夏の風物詩

「どんっどんっどんっ」。澤本さんの叩く太鼓が浅間神社に響き、お囃子の笛とともに「鹿ん舞」が始まりました。男子小中学生らが猛々しく舞い踊り観客たちを魅了します。続く女子小中学生らの「ヒーヤイ」。華麗な姿に息を飲みます。「鹿ん舞」と「ヒーヤイ」が交互に演じられた後、成人による「狂言」を最後に、熱気醒めやらぬままに盆踊は幕を閉じました。

徳山区に伝承され、これまで途切れることなくつなげてきた夏の風物詩。現在は小中学生の少年少女たちが中心となり、その伝統を受け継いでいます。

コロナ禍以降、演目を一部取り止めるなど規模を縮小して行われてきましたが、小中学生らの華やかで凛々しい姿を一目見ようと、毎年多くの見物客が浅間神社を訪れます。

にぎわう境内を見ながら澤本さんは「時間がとれない中でも練習に参加してくれて本当にうれしい。盆踊は参加した人しか魅力が分からない。練習を重ね、緊張感の中で迎えた本番。この経験はきつと子どもたちの財産になる」と子どもたちの姿を見守ります。

初めて踊ったヒーヤイ もっとたくさんの人に伝えたい

「すごく緊張して、ちよつと間違えちゃったけど、練習した成果が出せた！」と今年初めてヒーヤイを踊った第一小学校5年生の長谷川芽美さん（徳山区）と中澤美結さん（徳山区）は声をそろえます。練習の時から、中学生の可憐な姿にあらがれていたと話す二人。「地域の人やお姉さんたちに教えてもらい、少しずつ踊れるようになってうれしかった。本番はすごく楽しくて、この気持ちをとくさんの人に伝えたい。徳山の盆踊を他の地域の人にも教えて、一緒に踊れるようになりたい」と笑顔で話してくれました。

変わり始めた伝統芸能 盆踊を全国へ生配信

当日は、これまでにない試みとしてSBS静岡放送のユーチューブチャンネルで全国に生配信されました。芸能の神秘性や芸術性に人々が触れる機会が増えれば、その中から興味関心を抱く人が増えるはず。徳山の盆踊は時代や人の趣向の変化に合わせて、受け継ぐべき伝統は守りながら、柔軟に変わらうとしています。

interview 『徳山の盆踊』を支える人たち



ヒーヤイ伝承者
まつやま ひでこ
松山 秀子 さん
(徳山区)

子どもたちとともに継承する

子どもたちには、ヒーヤイだけでなく、あいさつから礼儀、着物のたたみ方までさまざまなことを教えます。熱心に聞き、成長していく姿を見られて本当にうれしいです。最近のかつての教え子の母親世代が指導する機会も増え、芸能を次代につなげる伝承者の誕生を喜ばしく思います。



徳山古典芸能保存会
よしだ さとよ
吉田 沙代 さん
(徳山区)

裏方として支え活気づけたい

北海道から移住後、知人に声を掛けられ保存会に入りました。それまで伝統芸能に触れる機会はなく、新鮮なことばかり。今はお囃子の演奏を中心に参加していますが、今後は祭りの準備や屋台の運営などの裏方の仕事をして、芸能と祭りの継承に力を注ぎたいと思っています。

芸能の貴重さをもっと広げたい

中学生の頃にヒーヤイを踊って以来、徳山の盆踊から離れたことで、その貴重さをより実感しました。コロナ禍で祭りの規模も熱気も少なくなりましたが、今後は徳山の芸能をもっと盛り上げるために、SNSなどで若い世代に広げていきたい。私たちが得意なことで、力になれることがあるはず。です。



川根高校2年
あたらし りこ
新 梨江 さん
(徳山区)

僕たちが次につないでいく

地域に子どもが少なくなって担い手が不足していることは知っています。ふるさとかから伝統芸能がなくなってしまうのは本当にさびしい。何とか引き継いでいければと思っています。今後は中学生の僕たちが下級生に教えていく立場になる。責任を持って、でも楽しみながら取り組んでいきたいです。



(左から)
きしもと りゅういち
岸本 龍一さん (徳山区)
かしかわ れい
梶川 伶依さん (藤川区)
こばやし そら
小林 蒼空さん (静岡市)